



## 神奈川の研究者紹介

|                                  |   |   |
|----------------------------------|---|---|
| 氏名                               | 沈 潔 (しん けつ)   |  |
| 現職                               | 日本女子大学人間社会学部社会福祉学科 教授(博士社会福祉)   |   |
| 主な経歴                             | 1995年日本女子大学で博士学位を取得、(中国)華中師範大学準教授、教授を経て、1998年に高知県立女子大学社会福祉学部へ赴任、2010年より現職   |   |
| 専攻分野・研究テーマ                       | 東アジア福祉政策・日中介護福祉政策比較   |   |
| 主要業績<br>(これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等) | <p><b>【著書】</b></p> <p>沈潔・澤田ゆかり編著「ポスト改革期の中国社会保障はどうなるのか」ミネルヴァ書房 2016年</p> <p>沈潔著「中国の社会福祉改革は何を目指そうとしているのか —資本主義と社会主義の調和」ミネルヴァ書房 2014年</p> <p>共編著「東亜地域社会保障論」(中国語版)人民出版社 2014年</p> <p>共著「デモクラシーとコミュニティ北東アジアの未来を考える」未来社 2013年など</p> <p><b>【論文・報告書】</b></p> <p>沈潔編「国際的通用性を有する外国人介護労働者の職業教育モデルの創設に関する研究」報告書 2017年</p> <p>沈潔「中国における介護保険制度の創設を巡って」『日本女子大学人間社会学部紀要』N027 2017年</p> <p>沈潔「中国版介護保険制度の構想を読み取る」『週刊社会保障』N02948 2017年</p> <p>沈潔「中国介護福祉政策の動向と構造変化」『週刊社会保障』N02872 2016年</p> <p>沈潔「社会保障と介護福祉」『海外社会保障研究』2014年</p> |   |
| 神奈川県との関わり                        | 2012年より川崎市産業振興協議会委員を務め、現在に至る<br>川崎市にある日本女子大学西生田校舎に勤務  |   |
| メッセージ                            | <p>日本で暮らしている外国人の生活支援に関心を持っています。多くの外国人が、日本の社会保障制度に対する知識不足から私生活でトラブルに巻き込まれることがたびたびあります。よって外国人が制度を利用する方法及びそれに伴う責任について、分かりやすく理解してもらうための支援について考えています。</p> <p>生田緑地にある日本女子大学人間社会学部は、福祉、生活文化、国際的視点で新しい時代をリードする女性人材を養成しています。地域と連携した交流に積極的に取り組みたいので、ご連絡ください。</p>  |   |
| 連絡先                              | <p>日本女子大学 人間社会学部社会福祉学科</p> <p>〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1</p> <p>E-mail: <a href="mailto:shinko@fc.jwu.ac.jp">shinko@fc.jwu.ac.jp</a></p>   |   |

神奈川の研究者紹介

|                                  |   |   |
|----------------------------------|---|---|
| 氏名                               | 藤田 武志 (ふじた たけし)   |  |
| 現職                               | 日本女子大学人間社会学部教育学科 教授   |   |
| 主な経歴                             | 東京大学大学院教育学研究科博士課程満期退学<br>日本学術振興会特別研究員 (PD)<br>国立大学法人 上越教育大学学校教育学部 准教授   |   |
| 専攻分野・研究テーマ                       | 教育社会学の立場から、格差社会における学校や教育の役割を分析したり、あるべき姿を検討したりしています。   |   |
| 主要業績<br>(これまで発表した著書、論文、行政委員の経験等) | <p>【著書】</p> <p>「危機のなかの若者たち」(共著) 東京大学出版会、2017年。<br/> 「教育改革の社会学」(共著) 岩波書店、2011年。<br/> 「部活動 その現状とこれからのあり方」(共著) 学事出版、2006年。</p> <p>【論文】</p> <p>「学校教育における実践知の危機 —子どもたちの最善の利益に向けて」『学校教育研究』第32号、2017年。<br/> 「子どもの貧困問題と学校教育」『時報市町村教委』No.266、2017年。<br/> 「不登校数の増減をどう見るか —学校の聖性説を再考する—」『日本女子大学紀要 人間社会学部』第26号、2016年。</p> <p>【行政委員の経験等】</p> <p>新潟県生涯学習審議会委員<br/> 新潟県施策評価委員会委員</p> |   |
| 神奈川県との関わり                        | 大学の教員養成の仕事を通して横浜市や川崎市の教育委員会と連携しています。川崎市青少年問題協議会委員を2012年から4期連続で務めています。   |   |
| メッセージ                            | <p>【関心を持っている領域】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的格差に留意した学校教育や若者施策の具体的なあり方。</li> <li>・将来の自分の生き方や社会との関わり方を考えられる新しい進路指導のあり方。</li> </ul> <p>【神奈川県との連携に期待すること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもや若者の姿を学ぶ研修会などでお役に立てればと思います。</li> <li>・神奈川県の教育や施策の改善に向けて、子どもや若者の意識や行動、学力などに関する調査と分析を共同して行うこともできると思います。</li> </ul>                            |   |
| 連絡先                              | <p>日本女子大学 人間社会学部<br/> 〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1<br/> 電話: 044-952-6870 (教育学科中央研究室)<br/> 個人ウェブサイト <a href="http://fujita-takeshi.la.coccan.jp/html/profile.html">http://fujita-takeshi.la.coccan.jp/html/profile.html</a></p>   |   |